

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504047		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームいちえ(Aユニット)		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9-27		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170504047-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・事業所は、自然に囲まれ住宅街の中にある為、静かに生活できる環境になっており、近隣には公園があり、散歩に出かけ季節の花や木々をみて季節を感じたり、気分転換をしている。</p> <p>・事業所には裏庭もあり、天気の良い日には、ウッドデッキで日光浴をしたり、外気浴を楽しめる。</p> <p>・入居者の方の、日々の様子を観察し特徴を捉え今まで過ぎてきた情報を把握し職員間でも情報を共有しその人らしく過ごせるように支援している。</p> <p>・カンファレンスでは、入居者の状態を把握し、その人が必要なケアを職員間で意見を交換し検討したりよりよく生活できるように努めている。</p> <p>・入居者が、安心、安全な生活を送る為、新型コロナウイルスをはじめとする様々な感染症対策に努め、情報収集し、注意喚起を行う事で、事業所全体で徹底し対策行っている。</p> <p>・事業所全体で、防災への意識を高め、情報収集、情報交換、訓練の実施等で様々な災害に備え、入居者の生命を守る様努めている。</p> <p>・入居者同士コミュニケーションを図れるように、季節を感じ取れる行事をしたり、併設する児童デイサービスアノノとは、交流ができていないも二階から子供たちを見たりし癒される環境になっている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年2月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ふれあいの里 グループホームいちえ」は、札幌市郊外の自然豊かな住宅地に立地している2ユニットの事業所である。大きな窓に面した居間と食堂を中心に居室が配置された造りで、壁にはひな祭りの飾りや利用者と一緒に制作した季節の装飾が施されている。運営推進会議は、テーマを記載した案内状を構成メンバーに送り、地域包括支援センター職員や町内会長との意見交換を书面開催の議事録に反映させるなど、感染症流行の中でも工夫した取り組みを行っている。災害対策は、年2回の避難訓練の他に不定期に各種災害を想定して訓練を実施し、緊急時でも慌てず対処できるように日頃から職員の意識を高めている。また、感染症流行時も避難訓練前に近隣に案内状を配布し、地域との協力体制を再確認している。ケアマネジメントでは、センター方式シートを活用して思いや意向を把握し、毎月モニタリング評価を行いながら些細な変化にも柔軟に対応し、各利用者がその人らしい生活が送れるように細やかな支援を行っている。利用者一人ひとりの残存能力を活かして食事作りや洗濯を一緒に行うなど、家庭的な温かなケアに取り組んでいる。管理者は、職員の意見や提案を運営やケアに反映させるとともに、職員主体で考え、より良いケアや業務に活かせるように適切なアドバイスをしながら職員の育成につなげている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に内に掲示されており、ユニット目標作成時や、ケアの振り返りをする時に確認し、実践につなげるように努めている。	ケア理念の中に「住み慣れた地域の中で」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。毎年ケア理念を基に事業所目標やユニット目標を作成し、6か月ごとに振り返りを行っている。全職員で理解を深め、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス流行前は、町内清掃をしたり買い物など外出する事が多かったが、コロナ後は、回覧板のやりとりを継続し行っている。	公園や近隣の散歩で挨拶を交わしたり、利用者と一緒に回覧板を届けている。避難訓練を実施する時は近隣住民に案内状を配布している。感染症収束後は、町内会のお祭りやスノーキャンドル制作などへの参加を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はコロナウイルス流行の為、書面会議を開催し、町内会、民生委員、地域包括、消防の方々との連携や意見交換等は継続し行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で運営推進会議は書面会議で開催し、事前案内分にて意見や議題等ももらうようにし、事業所の状況を伝える事や、町内会、地域包括、消防からの報告は定期的にある。ご家族には議事録を郵送している。	テーマを記載した案内状を送付し、会議は書面開催している。避難訓練や身体拘束についての具体的な取り組みについて町内会長から質問を得て、質疑応答の内容を議事録に記載している。議事録と一緒にテーマに沿った資料も送っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方がいる為、何かあった時には、連絡を取り合い、相談や情報報告を行い連絡を取り合っている。	感染症流行前は書類を持参していたが、現在は郵送が多くなっている。市役所に新型コロナウイルス感染症の抗原キットの使用方法について確認したこともある。保護課の職員が来訪した時は、利用者の様子を伝えながら情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に内に身体拘束11項目、例外3原則を掲示確認できるようにし、各自確認行う。不適切委員会を設置したり。入職時や年に2回の研修を行ったり、研修報告、事例検討をし、振り返りを行い、日々のケアにつなげて、業務に活かせるように努めている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、年2回勉強会を行っている。3か月ごとに「不適切ケア防止委員会」を実施し、全職員で会議内容を共有している。玄関の鍵は日中も施錠しているが、安全面に配慮しながら外出に寄り添い、閉塞感を感じないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の定義を事務所に内に掲示して各職員が確認している。カンファレンスや研修会を実施し、振り返り見直しを行い、日々の業務から虐待につながる事のないようにし取り組んでいる。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は施設管理者が対応しており、3か月に一度ケアプランを送ったり、入院した時や金銭的な事があれば連絡をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、ご家族には入居の際に、施設概要、利用料金、重度化の際の対応等説明している。グループホームで出来る事、出来ない事を説明すると共に、疑問点、要望等聞き理解を得ていただき契約に至っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族は、意見や要望を言えるようにしている。生活の様子を、電話連絡や毎月の手紙でお伝えし、15分程ではあるが、感染対策を行い、可能な限り面会を行えるようにしている。	面会時や電話で家族の意見や要望を聞き取り、連絡ノートやタブレット端末に記録している。毎月、個別に担当職員直筆の写真入りの手紙を送っている。また、事業所の広報誌「一期一会」を年4回発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の業務で報告、連絡、相談を各職員から受けたり、必要に応じて面談を行い、日々の業務に反映している。カンファレンスを通して、職員同士の意見の交換をしている。	カンファレンスや日々の申し送りで職員の意見や提案を聞き、ケアの変更や業務改善に反映させている。管理者は、職員主体で考え、より良いケアや業務に反映できるように適切なアドバイスを行っている。管理者と職員の個別面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と意見交換が出来る時間、環境を作る事や、日々の介助や業務の中で長所を伸ばしていける職場作りに努め、職員個々の自主性を発揮できるように環境作りを行っている。又、各職員が入居者担当を持つ事や、能力に応じた係に配属する事で向上心が持てる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務時の働き方を確認、把握すると共に、職員一人ひとりの持つ能力、特性を生かした働き方ができるように努めたり、事業所内の研修を通し、職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、会議、研修会等で他事業所と交流を図り情報交換を行っている。また色々なネットワークを活用し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の際は、ご本人、ご家族と面談をし、施設内の見学や施設概要の説明を行っている。事前に、本人が慣れ親しんだ事柄を聞いたりし、安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることを聞き、一緒に考え要望や相談が解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人、ご家族から情報収集を行い、必要な支援の検討を行い、様々なサービスの提案を必要性に応じ説明、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前にご家族から生活歴を聞き取り、入居後は、生活の中から、本人の話を聞いたり、探りながら趣味等の把握をしコミュニケーションに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス流行の為、中々家族の方とは会う機会が減ったため関係が乏しいこともあるが、お願いや相談等は電話や月に一度手紙をだし交流し面会も対応している。又、希望があれば本人よりご家族に手紙を書いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス流行の為、外出や外食ができていないが、感染症対策を行い、近くの公園に散歩に出かけたりしている。親せきや友人に年賀状を書いてやりとりを行っている。	知人や友人から電話が来たり、手紙や年賀状が届く利用者もいる。職員は手紙の代筆や投函を支援することもある。感染症の流行で馴染みの場所への外出は難しいが、受診の帰りやドライブで景色を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の活動や行事など日々の生活から、みんなで話をしたり、利用者同士の関わりを大切に支えあえるよう交流ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、情報の提供や意見交換できる様に、いつでも連絡が取れる体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活から、話を引き出し、思いや希望に添えるように、思いや意向は書面に追記し、職員間で情報を共有し把握に努めている。	会話や表情、生活歴や家族からの情報を基に思いや意向を把握している。趣味や嗜好、暮らし方の習慣などをセンター方式シートに記入し、6か月ごとに更新して介護計画の見直しに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴、フェイスシート、アセスメントシートにて情報を確認し又、本人からも情報を引き出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から、状態を把握し、申し送りやカンファレンスで職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の状態を、日々観察し、毎月担当者がモニタリング評価し、毎月のカンファレンスで意見を出し合い、三ヶ月毎に、ケアプランの更新を行いサービス支援につなげている。	担当職員が実施した毎月のモニタリング評価を基に、計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画1表に反映させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、個人の記録に記入し、毎日の申し送りで職員間で情報を共有し、ケアの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の意見や要望をできるだけ取り入れ取り組めるように、臨機応変に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス流行の為、外出は少ないが、デイケアに通所しながら、地域、他事業所と関われるようしたり、季節行事に取り組んだり、季節を感じられる工夫をしながら取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き受診先を検討したり、今後の治療方針、受診後はご家族に報告し適切に対応できるように努めている。	月2回、協力医療機関の往診と看護師の訪問がある。歯科医による年2回の歯科検診と随時の往診体制も整えている。毎週「健康管理記録」を主治医に送り、受診後は「受診結果報告」に記録し、タブレット端末にも入力して情報を共有している。	

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師に入居者の様子を健康管理記録に記載してFAXし、月に二回訪問診療にて訪問医の診察を受け相談できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院の際には、現在の状況を伝え、ご家族と病状等聞き、医療機関と情報共有をしているが、コロナウイルス流行後は、面会等はできず、電話連絡のみとなっている為、できるだけ情報交換を行い、早期退院が出来る体制を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重症化や終末期についての話は説明し同意を得ている。ホームで、出来る事は話し合い支援に取り組めるようにしている。	利用開始時に、重度化の指針に沿って常時医療行為が必要になった場合は対応が難しいことを説明している。体調変化に応じて、家族、主治医、事業所で方針を話し合い、希望に応じて看取りも可能であることを伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや研修会にて身につけ対応できるように努めている。必要に応じて消防より助言を頂く事もある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、日中の避難訓練を実施し、その際に訓練の状況を説明し助言を頂き、相談できる体制にある。訓練内で、地震時の対応を災害マニュアルを用い取り入れるなど、様々な災害への意識、知識の向上に努めている。	年2回、昼夜の各種災害を想定した自主訓練を行っている。災害時に適切な対応ができるように、不定期での訓練も実施している。感染症収束後は消防署と地域住民の協力を得た避難訓練と、職員の救命講習の受講を計画的に進める意向である。	ケア別の個別対応について話し合った内容を記録に残し、定期的に確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行い、親しみやすい言葉使いを見直している。記録物は事務所で管理している。	身体拘束に関する勉強会で、言葉かけに関する研修も行っている。書類は事務所に保管し、申し送りの際は部屋番号を使用するなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がしたいことの、思いがくみ取れるように話をきいたり、日々の活動や行事は入居者の意見をふまえて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムに合わせて、休息したり、居室にてテレビを見て過ごし思い思いに生活できるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった、個々のオシャレや身だしなみができるようにしたり、三ヶ月に一度訪問美容にて気分転換できるように対応している。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活から、食事の好みを聞き、行事などで季節を感じられるよう食材を使い喜んでもらえるようにしている。出来る方は、食事準備や片付けを職員と一緒にに行い楽しめるように支援している。	法人作成の献立を使用し、切る、炒めるなどの調理に日頃から利用者も参加している。誕生日は、利用者希望の寿司やパンなどの食事でお祝いしている。ケーキやプリンなどの手作りおやつも楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の様子を観察し食事量、水分量は、水分表にて記載して把握し職員間でも情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔を保ち、不十分な所は、介助にて対応している。異常がみられる時は、訪問歯科にて相談し治療している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを排泄表にて把握し、定期的にトイレ誘導し、尿意、便意が低下した方にも、トイレに座ってもらえるよう声掛けしながら誘導している。	自立している利用者以外の排泄状況を記録し、個々に応じた時間帯に声かけ誘導などを行い失敗を減らしている。可能な限りトイレでの排泄を行い、状況に応じて適切な排泄用品を使用することで、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供したり、便秘の方は、訪問診療にて相談し対応している。身体を動かす機会を作り対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を確認しながら、週に2~3回入浴できるように対応している。入浴剤を入れて、リラックスできるように入浴が楽しみ、清潔の保持が保てるように支援している。	毎日入浴が可能で、1人当たり週2~3回程度の入浴を支援している。一人ひとりお湯を交換し、好みの湯加減や入浴剤を使用している。自立している利用者方は見守りでの入浴を行い、本人のペースで入浴を楽しんでいる。同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠できるように、シーツなど清潔にしたり、環境を整え、2時間毎に巡回を行い、安否確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報は、個人ファイルにあり、いつでも確認できるようにし、作用、副作用も把握するようにしている。内服変更の際は、本人の様子を観察し注意して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみを把握し、日々の生活の中から本人の出来る事を活かせるように活動や行事を通して楽しめるように支援している。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス流行の為、外出は難しくなっているが、気分転換ができるように、ドライブ、散歩等他者と接触しないようにして活動している。又、ウッドデッキにて、日光浴をしたり、お茶を飲んだり楽しめるように支援している。	近隣の公園への散歩や、畑作業、ウッドデッキでお茶やお菓子を楽しむなど、外気に触れる機会を設けている。滝野方面へドライブに行き、車窓から花見などの外出も行っている。感染症流行前は、季節ごとの外出行事や馴染みの美容室への個別支援も行っていた為、収束状況に応じて再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお金の所持はしていないが、本人が安心できるなら、少量のお金を所持している。欲しいものがある時は、職員が買い物に行ったり、ご家族が管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時は、電話をしたり、手紙を出してやり取りが継続できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる壁面、装飾をしたり、環境整備に気をつけ掃除、感染症対策しながら、対応し安心して生活できる居心地の良い空間づくりに気を付けて支援している。	居間には左右に大きな窓があり、日中は日差しが差し込み、開放的で広々とした明るい空間になっている。椅子の他に横になって休めるマットレスを設置するなど、利用者が思い思いの場所で過ごすことができるように配慮している。季節感のある手作りの装飾も施されており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごしたり、気の合う者同士昔話をしたり、共通の話題で話が楽しめるように入居者同士が居心地の良い環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた物、思い出の物をおき、安全面に気を付けながら環境作り居心地よく過ごせるように心掛けている。	クローゼットが備え付けてある居室は、使い慣れた机や椅子、タンスなどの家具類やテレビ、ぬいぐるみなど好みの物を持ち込んでいる。壁面には写真が飾られていたり、時計やカレンダーなど生活感のある物もあり、安心して過ごすことができる居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の居室やトイレ等に表札をつけたり、自分できる事を活かせるよう安全な環境作りを心掛けている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504047		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームいちえ(Bユニット)		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9-27		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=0170504047-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナのため、外出に制限があるが、基本は天気の良い時には気分転換に散歩やドライブへ出掛けたり、外出の機会を作れるよう努めている。自然が豊かな環境であり、共有スペースや各居室から眺める事ができる。裏庭の雑木林からは、鹿やキツネの姿が見られる時や、鳥の鳴き声などが聞かれ季節を感じることができる。外出が困難な入居者様は職員が買物を代行するなどして、入居者様の思いや希望に沿えるように努めている。また、毎月、各担当でモニタリングで評価を行い、カンファレンスで話し合い、その方の現状に合った支援が出来るよう努めている。入居者様の趣味嗜好、生活歴などを把握し、職員間で情報共有に努め、入居者1人1人が心地よく、穏やかに過ごして頂けるよう、家庭的な雰囲気の中で生活が出来る環境作りを心掛けている。毎月、誕生日会や季節に合わせた行事を開催し入居者同士の交流を深めている。
各入居者担当が毎月手紙で様子、状態を伝えたり、広報誌や季刊誌を発行、フロア内に掲示し、ご家族様に生活の様子が伝わる様に努めている。ご家族様が面会に来られた時や受診の報告をする際には、その時の状態を詳しく説明をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にユニット目標を作り、職員全員で振り返りを行い、実践に繋がられるよう努めている。また、職員がいつでも確認できる場所に理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスが続いているため、入居者と近隣の方の交流は無いが、事業所では町内会に加入し、回覧板を回したり、避難訓練の案内文をお渡しするなど、コロナ禍でもつきあいを継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から質問や相談を受けた時には、認知症の理解を深めて頂けるよう説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行っているが、現在もコロナウィルスが続いているため、書面で会議を行っており、テーマを決め意見が出やすいようにし、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の調査員が来られた時は、状況や取り組みなど伝え、連携が取れるよう努めており、生活保護の担当者が来訪された時には、近況報告など行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、玄関に施錠をしているが、他の場所は施錠をしておらず、自由に行き来することが出来る。また定期的に身体拘束の勉強会で理解を深め、3か月に1度、不適切ケアが無いかな、話し合う時間を作り、身体拘束をしないケアに取り組むよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルはいつでも確認することが出来、カンファレンス内の勉強会で理解を深めたり、全職員で虐待になりそうな事が無いかな、日々の対応を振り返り、虐待の防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方は、管理職が対応しており、職員には、勉強会や説明を行い理解を深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所として対応可能な事を予め伝え、家族からの疑問や状況が変化した時には十分な説明を行い、納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見・要望がある時は、その思いを汲み、職員全員が反映出来るよう努めている。また、来訪時や電話などで思いを言える環境を作れるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自分の思いを言える環境を作り、カンファレンスで、全職員と業務改善を話し合い、場合により、管理者と個人的に話し合える機会を作れるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間とのコミュニケーションを大切に、思いや悩みを把握出来るよう努めている。また、気分転換や休憩をしっかりと取れるようにしており、苦手なところがある場合には、一緒に解決策を考え不安を軽減できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウィルスが続いているため、外部研修は行っていないが、eラーニングでの研修で、経験に応じた研修を受けたり、カンファレンスでケア方法を学べる事ができるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在もコロナウィルスが続いているため、外部研修は行っていない。本来は、他の事業所との合同研修会に参加し、色々な考え方や意見・経験を学ぶ事が出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に、面会をし生活の様子や不安など話を聞く機会を設け、安心して生活が送れるよう、ゆっくり話をすることが出来よう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の前に、面会をし家族の苦労や思いを把握できるように努め、信頼関係を築きながら、どのような対応が出来るか話し合えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族の状況や思いを把握することに努め、必要な支援が提供できるよう、他のサービスも含めた対応を考えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、掃除や食器洗いなどの家事活動を一緒に行い、感謝の気持ちを伝えるなど、共に支え合える関係が築ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、手書きの手紙で近況報告し、体調変化などがある時にはすぐに電話連絡を行っている。また、拒否が強い方には、家族と協力して促しを行い、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在もコロナウィルスが続いているため、かかりつけの病院受診、面会や外出に制限がある。本来は、制限なく面会や家族と外出や外泊を自由に行うことが出来、継続して馴染みの場所や関係を保てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中から、入居者間の関係性を把握し、個性を大切にしながら、孤立しないよう職員が介入して会話を楽しむなど、他者と関係を築ける様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も可能な限り経過を把握し、必要に応じて情報提供するなど、継続的なかわりが出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や生活歴、家族からのお話などから思いや希望を把握し、意思疎通が困難な方には、表情などからも汲み取るように心掛け、意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族のお話を聞き、生活歴を確認するなど、これまでの暮らしを把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや毎月のカンファレンスで入居者の情報を共有し、現状を把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当者がモニタリングを行い、それを基にカンファレンスで話し合い、現状に合った支援方法など見直しを行っている。また、本人や家族の意向を確認しながら、3か月に1度、介護計画の更新を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を生活記録に記載し、気になる所や変化が見られる時は、申し送りや連絡ノートを活用して情報共有し見直しをするよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事やおやつは、利用者の状態に合わせた形態で提供し足り、市のオムツサービスを利用する申請を行うなど取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスが続いているため、出来ていないが、訪問美容を利用している。制限がない時には、買い物や花見など外出をするなど行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けながら、希望される方には、今まで通院していたかかりつけ医を継続して受診することも可能で、市内の医療機関であれば、施設対応している。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度健康管理記録で状況報告し、体調変化がある時には、すぐに電話連絡し、相談指示を受けている。月2回の訪問診療では、本人自ら相談される方もいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナウィルスのため、面会に制限がある為、電話にて可能な限り、医療機関や家族と情報交換し、早期に退院出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化や看取りの対応を説明し、入居されてからも生活されていく過程で、変化が見られる際には、早い段階から、本人・家族・医療機関と話し合いを行い、連携して支援出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にマニュアルを置き、いつでも確認出来るようになっている。また、定期的に研修を受け、対応出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練を定期的に行い、落ち着いて対応出来るよう努めている。冬期間、裏庭に雪が降り積もるため、除雪をし避難経路を確保している。また、近隣の方と連携を図り、災害時には避難誘導した方の見守りをお願いをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った声掛けを行い、カンファレンスなどで定期的に職員の対応を振り返り、不快な思いにならない声掛けが出来るよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中や生活歴などから思いや希望を聞き取り、選択肢のある質問で問いかけを行い、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、1日の流れはあるが、その方の生活リズムに合わせた柔軟な対応が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には自ら服を選んで頂いたり、訪問美容室では、その方の意向に合わせてながら支援出来るよう努めている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食その方に合った食事形態で提供しており、行事の際には、利用者が好む食材や食べたい物を選び食事を楽しんで頂けるよう努めている。また、自由食も取り入れ、季節の食材やメニューを考え提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表を活用し摂取量の把握を行い、不足されている時には、好みに合った物を提供する様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科検診でアドバイスを受け、その方に合った口腔ケアを行うよう努めている。また、義歯を使用されている方は、夜間、義歯をお預かりし洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、継続してトイレでの排泄が出来るよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分摂取を促している。また排便の確認を行い訪問診療で相談しながら、座薬や内服薬を使用し便秘にならないよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに利用者の意向や体調に合わせて柔軟に対応している。拒否がある方は、職員間で連携を取り声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に合わせて休憩時間を作り、夕方からは穏やかに過ごして頂けるような環境を作り、安心して眠られるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員1人1人に担当を決め定期薬を確認しており、服薬の変更がある場合には、申し送りや連絡ノートなど活用し、作用・副作用など情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合わせて、家事や掃除を職員と一緒にしたり、その方の好きなテレビ番組を観たりし、楽しみごとを支援出来るよう努めている。		

ふれあいの里グループホームいちえ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスのため、買い物外出はしていないが、天気がいい時は、庭や近くの公園に散歩したり、ドライブなど外出が出来るよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、事業所や家族が行っており、必要があれば家族と相談し所持や使用する事が出来るが、希望される方がいない為、使用されることがない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限なく電話を使用出来る環境で、時折、職員が間に入り、家族とお話をされたり、ご自分の携帯電話で連絡を取られている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は日当たり良く、壁には季節に合わせた装飾を行っており、日々の生活では、掃除や消毒、整理整頓を心掛け、居心地が良く家庭的な環境を作れるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を基に食堂の席を決めたり、居間ソファでも思い思いに過ごして頂けるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その方が使い慣れた物や好みの物を置いたりしており、ゆっくり居心地良く過ごして頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車椅子でも自由に移動出来、場所が分からない方でも安心して頂けるよう、トイレなどの案内を掲示し自立した生活が送れるよう努めている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームいちえ

作成日：令和 5年 2月 27日

市町村受理日：令和 5年 3月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練時、入浴中や排泄中の方の個別対応の誘導方法の実施がなされていない。	避難訓練時に個別対応の誘導を実施。	避難訓練の際に入浴中や排泄中の方をどのように誘導したらいいか検討、実施する。総括で他の職員も確認出来るように記録に残す。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。